被爆73周年・平和の原点を見つめ
この地球から核と戦争をなくしましょう

第26回ヒロシマ市民の描いた

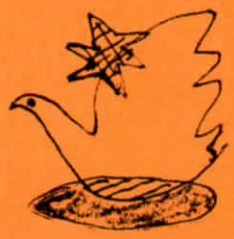
原爆 絵画展報告集

2018年8月25日(土)
2018年8月26日(日)
坂戸市文化施設オルモ

特別企画：平和紙芝居(あじさいの会)

主催：原爆絵画展坂戸・鶴ヶ島地区実行委員会

後援：広島市、長崎市、埼玉県・坂戸市・鶴ヶ島市及び各教育委員会、丸木美術館
埼玉新聞社、テレ玉、FM NACK5、*NHK*さいたま放送局
朝日新聞社さいたま総局、読売新聞さいたま支局、毎日新聞さいたま支局、
東京新聞さいたま支局、琉球新報社



被爆７３年、第２６回ヒロシマ市民の描いた

原爆絵画展

開催日時　２０１８年　８月２５日（土）　１１：００～１９：００
　　２０１８年　８月２６日（日）　９：３０～１８：００

開催場所　坂戸市文化施設オルモ

『展示』

＊ヒロシマ市民の描いた原爆絵画　Ｎｏ.１３、Ｎｏ.１８（各３０枚）

＊丸木位里・俊「原爆の図」複製（第４部「からす」第１５部「長崎」）

＊写真及びパネル

「原爆と人間」ヒロシマ・ナガサキ

「なぜ原爆は投下されたか」

「沖縄戦・国内唯一の地上戦から７０年」写真

「３・１１巨大津波襲来」写真

「東電福島原発事故、炉心溶融原発爆発」写真

「日本の中国侵略」写真

＊展示品　原爆瓦、ガラス片

＊植木鉢「子どもたちの未来に希望を与える」アオギリ２世

アオギリ関連写真・新聞記事「緑で平和を育てよう」など

『ビデオ上映』　「はだしのゲン」他

『特別企画・被爆体験を次々世代に引き継ぐ』

＊平和紙芝居・あじさいの会

「純子さんの願い」「みよちゃんの赤いぽっくり」

＊お話「広島で被爆して」服部道子さん

＊報告「ヒロシマに学ぶ」加藤　咲さん

＊報告「東京大空襲を受けて」森義明さん

【入場者数】　８月２５日（１０７人）２６日（１２３人）計２３０名

【アンケート回収】　計　１０２枚

戦争や核兵器反対を若い人や子どもに原爆絵画展を通じ伝えていきたい

実行委員会代表　　白石　俊夫

今年は広島、長崎に原爆投下されて73年を経過、広島では14万人の人々が、13歳14歳の子どもが約8千数百人のうち6000人以上の子どもたちが即死、長崎では7万人の人びとが亡くなった悲惨な、非人道的原爆で命をなくしたのです。

このような原爆、核兵器を地球から無くそうと取り組んできました。昨年は国連で「核兵器や保有などを法的に禁止する核兵器禁止条約」が122か国の賛成で成立しましたが、日本はこの条約成立に核保有国と一緒にボイコットし世界から被爆国でありながら批判が上がりました。

また、原発では2011年東日本大震災以降、東電福一原発事故の汚染水問題は今なお解決していません。安倍総理はオリンピック招致の際「放射能汚染水は完全にコントロールしている」と大嘘を吐いたが、汚染水問題は解決されておりません。

私たちは26回目の絵画展で評価したいことは①、実行委員会から若者を広島に派遣し、ヒロシマの原爆の悲惨さを学び、絵画展の企画で反原爆の重要さを報告され行動に参加されたこと。②、広島で被爆された悲惨な体験を語り部として活動されている蕨市在住原爆被爆者協議会の服部道子さんを招いて、原爆の悲惨さ、非人道的な兵器であることなど、身をもって体験された話をしていただいたこと。③、今回の開催に初めて城西大の学生5名がボランティアとして参加され絵画展の運営に大きな力となったことなど今後の原爆反対の継承に若い人たちが運営に参加されていくことに大きな期待をしています。

このように、原爆の記録、被爆の保存し継承することなどは、広島や長崎にだけ課せられるものはありません。国はもとより全国の自治体で取り組むことがそして多くの国民市民が関心をもっていくことが必要ではないだろうか。

今、戦争の愚かさ、原爆の悲惨さを被爆国の一市民として命の大切さなどを改めて訴えていくことが求められています。

特に戦争を知らない若ものや子どもたちに伝えていくことが重要であることを毎回の原爆絵画展で感じています。最後に絵画展成功に向けて多くの後援や支援をいただき、運営に関わった皆さんに感謝をいたします。

語り継ごう、ヒロシマの心を

武　井　　誠

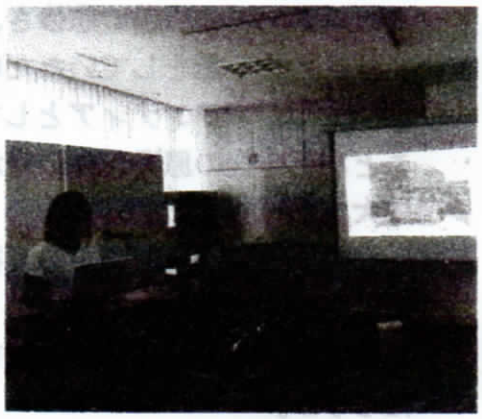
原爆投下から７３年が経過した今年、第２６回「ヒロシマ市民の描いた原爆絵画展」が開催され、２日間で２３０人の方が来場されました。

その絵画展特別企画での服部道子さんをはじめ、私は今年の夏、３人の被爆者の方から体験をお聴きする機会がありました。どの方も、筆舌に尽くしがたい凄惨な体験を、研ぎ澄まされた言葉で語られ、お話は私の心に深く刻まれました。そして、お話の最後に共通して言われたのは「原爆・戦争の恐ろしさ、平和の尊さを決して忘れないでください。」「考えてほしい、語り継いでほしい、行動してほしい」「祈るだけでは、平和は来ない」ということでした。

私たちには、この訴えに応える重い責任があると感じています。　このことについて絵画展実行委員の一人として提案し、取り組んだことを２点報告します。

一つ目は「ヒロシマに学ぶ埼玉子ども代表団」の報告です。

埼玉平和運動センターの取り組みとして毎年行われてきたこの代表団に坂戸市民の若者を子どもたちの世話係を兼ねて派遣、参加費用を絵画展実行委員会が負担し、絵画展の特別企画の一つとして行ってもらいました。パワーポイントを駆使して、たくさんの画像とともに、素晴らしい発表をしてくれました。



二つ目は、大学生ボランティアの参加です。

６月に城西大学で、ボランティア活動に興味を持つ学生さんたちにお話をする機会がありました。一つの例として原爆絵画展のことを紹介し、絵画の

搬入・搬出、会場整理、駅頭での宣伝活動などのボランティアを紹介したところ、聴講されていた５人の学生さんからメールで申し込みがあり、今回初めて実現しました。骨惜しみせずよく働いてくれて、とても助かりました。

二日目の午前中には、子ども代表団の報告をする若者も含めて、別室で「ミニ学習会」を行いました。内容は、

・絵画、展示資料、参考文献などをみた感想の交流。
・午後の発表のリハーサルと、感想の交流。
・戦争が起こる原因は何かについて意見交換。。

私の短いコメントをはさみながらの１時間半、大変有意義な時間が過ごせたと思います。

「この取組の重要性を感じた。一部だけの問題にしないで、こういうことを続けて、みんなにわかってほしい。」「被爆者と、そうでない人の認識のギャップについて考えさせられた。」「実態を知る努力をこれからもしていきたい。教科書は文字から入るので実態が伝わりにくい。」「国民を洗脳する『教育」の恐ろしさを感じた」

真剣にこういった意見を発表・交流する若者たちに、私は希望を感じました。来年度の広島派遣を希望する手を挙げてくれる学生もいて、感激しました。

「油断すると、あっという間に戦争はやってくる」これは私が今年、広島市で体験談を聴かせていただいた切明千枝子さんの言葉です。そのとき戦場に赴かねばならないのは若者たちです。彼ら自身が彼ら自身の手で平和な未来を切り拓いていくために、今年の取り組みがさらに前進するよう、走り続けます。

－平和チラシ－

ヒロシマ市民の描いた原爆絵画展のあんない

特別企画

★8月26日（日）午後1：30より

会場：坂戸市オルモ

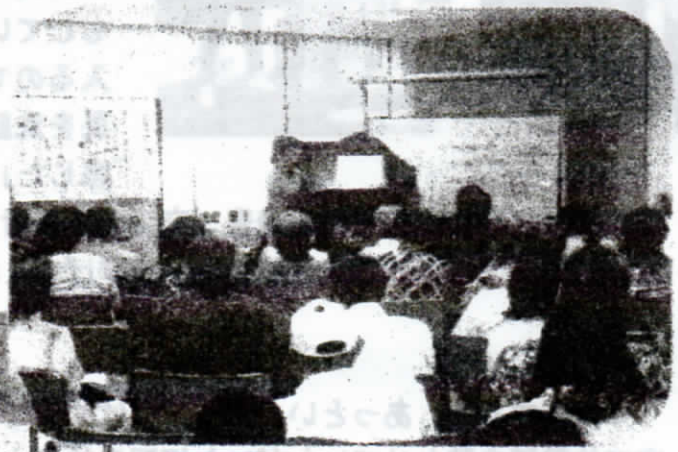
◆平和のための紙芝居：あじさいの会

◆広島派遣団報告：加藤　咲さん

◆埼玉県原爆被爆者協議会理事：服部道子さん（89歳）

「私はあの日、あの時、広島にいて、見て、熱った被爆者です。死にたくなかったあの人たちの気持ち、ホンマのことを伝えなければならない」

（服部道子さん談）



上・昨年の紙芝居会場風景（あじさいの会）

オルモ会場風景

主催：原爆絵画展坂戸・鶴ヶ島地区実行委員会

「ヒロシマに学ぶ埼玉子ども代表団」引率　加藤　咲

2018年の8月4日から6日、広島に行って学んできた事をお話しさせていただきます。今回、行かせていただこうと思ったきっかけですが、お恥ずかしい話、私は生まれてから20年間、原爆についてもよく知らなくて、学校で習った程度の知識しかありませんでした。ずっと、広島に行ってみたい、学びたいと思っていたところお誘いいただきまして行かせていただきました。

今回一緒に行かせていただいたのは、埼玉県のそれぞれ違う学校に通う子どもたち。小学5年生から中学3年生の男女6名と13年間子どもたちと引率されている方と8 名で行動いたしました。25回目となるこの活動ですが、第1回～13回まで引率されていたのがこの会の実行委員の武井誠さんです。

最初にとても有名な平和記念資料館にいきました。2時間の自由時間があり、私も１人で館内を見学いたしました。

入って一番はじめにあるのが当時中学生だった男の子3人の学生服です。溶けて、焼けてボロボロになっている布とその隣に3人の写真がありました。奥に進むと三輪車がありました。当時3歳の三輪車が大好きだった子のものだそうです。いつものように家の前で遊んでいた時に三輪車と共に焼かれてしまい、その夜に亡くなったそうです。鉄の三輪車でさえも真っ黒になっているのを見ると、この子はどんな姿になってしまったのだろうととても怖くなりました。小さな子ども、夢に向かって頑張ろうとしていた少年、それぞれの生活が一瞬にして奪われてしまった様子が鮮明に残っていました。ビデオで見るよりもさらに迫力があります。

資料館に入る時に子ども代表団のもう１人の引率の方が、当時を知るためには「**見ること、聴くこと、そして自分で考えることが大切、想像する事が大切だ。**」とお話ししてくださいました。私もそれにならい、ひとつひとつの展示物から当時を想像して、本人、家族の想いを考えてみました。見学をしていると胸がいっぱいになり、心が重くなってしまい、外に出られずにはいられませんでした。

展示物の中に中学一年生の女の子の日記がありました。原爆の日の、前日に書かれた日記です。「(略)今日、美智子を私が風呂に入れたので、喜んでいた。お母さんだと水を飛ばせばしかられて、私だと一緒にゆをとばすので、おもちゃを浮かせたりしてよく入った。夕飯は、うどんだった。私が、おしるに、味をつけて、こしらへたので、

お父さんも、お母さんも、おいしいと言はれた。反省。一生けんめいすると、何でも面白いと思った。」と書かれていました。

家族想いで、率直な気持ちが書かれた日記。私が中学一年生だった時は、と思い返してみると、部活動に打ち込んで、自分が一生懸命にやればやるほど記録が伸びていくのが楽しくて仕方なかったのを思い出しました。境遇は違いますが、同じ年齢の時にこの女の子はこれから色んな事が楽しくなってきて、たくさん吸収できる時に未来が断たれてしまったと思うと、いたたまれなかったです。

平和資料館では「原子爆弾」という言葉ひとつでくくられていた、今までの私の考えが一気にくつがえされました。73年前の8月6日はいつもと同じ暑い日だったそうです。8時15分、上空600メートルのところに原子爆弾は落とされました。約4000度の熱により、人々の肌は焼けて、垂れ、猛烈な爆風によってガラスが飛び散り肌に突き刺さるほどだったそうです。火事もみるみる広がり一面が一瞬にして焼け野原になったそうです。道路を歩くにも倒れた方を踏まないようにしながら。水を求め川に行こうとしたならば川がうまるほど死体が浮かんでいたそうです。

じきに降りはじめた黒い雨には放射能が含まれ、なんとか生きのびた人々の体内をどんどんむしばんでいきました。一瞬にして広島の町や、人が姿を変えた事、その後、何年経っても放射能や病気の恐怖と闘わなければならなかった事、広島に行って初日の最初の出来事として、とても衝撃を受けました。

次に、移動して「原水爆禁止世界大会・広島大会」に出席させていただきました。会場にいる全ての方が、ピースと書かれたTシャツを着て、核も戦争もない平和な未来を作っていこうという考えを持っていました。ここでは当時13歳の時に被爆された方のお話をうかがいました。実際に体験された方が生で目にした事や感じた事をそのまま話していただけたので先程よりもイメージがさらに鮮明になりました。

お話しの最後に「平和の原点とは何か」についてお話しされていました。それは「思いやりの気持ちを持つ事。思いやりの気持ちを持った人が集まること。優しい気持ちを持って声をかけられる事が平和に繋がる。」とお話しされていました。子どもたちにも分かりやすい内容でしたが、私にとっても身近なところから出来る、平和への一歩かなと思います。

1日目の日程はほとんど歩いて移動しました。広島は埼玉よりも川が多くて、とっても蒸し暑かったです。子どもたちも参っている様子でした。「もう歩きたくない、もうムリー」と言いながらも頑張って歩いていました。

2日目は、1日目に参加した原水爆禁止世界大会の子ども慰霊祭に参加しました。各県から集まった子どもたちと交流しました。身元が分からない、引き取り手がいない等の理由で約 7 万人の方の遺骨が納められている原爆供養塔の前で各県の代表の子が平和への想いを読み上げました。埼玉県からは小学5年生の男の子が代表として読んでくれました。

その後、グループに分かれて碑巡りを行いました。平和公園内のたくさんの慰霊碑。一つ一つに建てた想いがあり、語り部さんからお話しを聴いてまわりました。

広島の原爆について学ぶとなった時に、まず、目にするのが原爆ドームだと思います。元々は広島県の特産物の販売促進のために造られた産業奨励館という建物だったそうです。原爆ドームから160メートル離れた島病院というところの上空600メートルのところで原子爆弾は爆破しました。原爆ドームは、今は鉄で補強されている様子が生で見えました。補強までしてなぜ残そうとするのか。辛い記憶を思い出してしまうから無くしたいという意見も出てなくす傾向になった時期もあったそうです。それでも、被爆者本人やその家族から原爆ドームをなくしたら「自分自身が忘れ去られてしまうようだ。人々が忘れて行く中で、当時の記憶やこれから原爆症になるかもしれないという不安と戦っていること、過去のことを忘れたら未来はない。」という意見から現在に至っているそうです

皆さん、千羽鶴は折ったことがありますか？「鶴を千羽折ると元気になる」と言われています。それを信じ続け、亡くなるまで折り続けた少女の像が「原爆の子の像」です。モデルとなった佐々木禎子さんは2歳の時に被爆し、それでも元気に育ち小学校でもリレーの選手になるほど活発な女の子でした。小学校6年生の時に白血病を発症しました。恐らく黒い雨、放射能の影響です。千羽鶴を折ると元気になると信じ、千羽鶴を折り続け、周りの人も協力しましたが 1 年も経たずして病で命をおとされたそうです。佐々木さんの折る鶴は折り紙だけでなく、薬を入れる袋や包装紙など色んな紙で作られ、鶴が増えていくごとに小さくなって行ったそうです。皆さんはなんで小さくなっていったと思いますか？明確には分かっていないそうです。私は死に対する不安から小さくなっていたのではないかと思います。隣で話を聞いていた小学5年生の女の子は「いっぱい折ると治ると思ったから、限られた紙でとにかくたくさんつくりたかったんじゃないかな？」と言っていました。今でも、この像の周りにはたくさんの折り鶴が送られて来ています。この折り鶴は平和資料館の展示案内や、ハガキに再生紙として使用されています。

次に移動したところに2本の木が立っていました。被爆アオギリです。ここの会場の

入り口にも展示されたものをご覧になった方が多いと思います。被爆地では放射能の影響で何十年も草木が生えないと言われていましたが、このアオギリは翌年の春から芽を吹いたとされて「生命力のシンボル」になりました。坂戸市内の学校にも植えていただいているそうで、私の母校にもあると、この会に参加して初めて聞きました。通っている当時は全く知りませんでした。小・中学生もこの木をキッカケに原爆について少しでも興味を持ち、平和について考えられたらいいなと思います。

10個近くの碑巡りを終え、ドーム前で、平和への意思表示としてダイインを行いました。亡くなった方のふりをするという事で、子どもたちは地面に寝そべっていましたが、日向は手もつけないほどの熱さでした。被爆された方はこれと比べものにならないほどの熱さだったんだろうねと子どもたちと話しをしました。そんな中、お昼寝じゃないんだぞ？とつっこみたくなるようなやんちゃな子もいました。

会場を移動して、被爆された方のお話しをお聞きした後に高校生が主体となって平和について考える「**メッセージ From ヒロシマ 2018**」に参加しました。各国の方のお話しを聴いたり、高校生と太鼓やダンスをして、子どもたちは１番楽しそうにしていました。みんなで平和について自由に表現するという企画があり、思い思いの**平和**を絵や文字で紙に記していました。楽しみながら平和についてみんなで考えられるのはとても良い機会でした。各県の代表の子が平和についての発表をしました。埼玉県からは中学3年生の女の子が代表として話してくれました。署名活動をしている高校生も発表があり、団体として大きく掲げていた言葉が平和への活動は「**微力だけど無力じゃない**」という言葉でした。平和について考えたり、活動していく中で私個人の力はすごく小さいし、弱いと思います。しかし、それはムダにはならないし、無かったことにはならない事なんだなと思い、勇気をもらえる言葉でした。

次に平和祈念館に行きました。ここでは原爆で亡くなられた方の名簿がパネルに一覧になっていたり、被爆者のお話しの映像がたくさんありました。同じ館内で詩の朗読会に参加させていただきました。普通の言葉とは表現がまた違った形態で原爆の恐ろしさを感じ、情景が思い浮かびました。その中の一つの詩を埼玉子ども代表団で読み上げました。紹介させていただきます。当時小学３年生の作品です。

げんしばくだん

げんしばくだんがおちると、ひるがよるになって、人はおばけになる

率直な気持ち、見たものを言葉にしたのだろうと思うと共に頭の中に景色が浮かんできました。

色んな学習をさせていただき、夜は広島風お好み焼きを食べました！とっても美味しかったです。中には2枚をペロッと食べてる子もいました。

3日目、8月6日平和記念式典が行われる平和記念公園に向かいました。昨日までも混んでいましたが、想像を超える人の数でした。公園内のモニターで見る事が出来ました。広島市長や子ども代表の話を聴いたり、黙祷をして、広島の人や同じ想いを持った人と同じ空間を過ごせてとても色んなことを考えられる時間でした。昨年まではこの日についてあまり深く考えることがなく、次の日のニュースで「あ、昨日だったんだ」と見る程でした。今回の経験を通して今なお、あの日の記憶、病と闘っている方がいる事、平和がどんなに尊いものなのか学んだので、8月6日をきっかけとして、改めて平和について考えて行きたいと思います。

江ノ電で移動し、最後は宮島に行きました。さすがに子どもたちも帰りの電車は疲れ切っていました。初めて会う子たちと、3日間かけて73年前の事を学ぶのはすごく体力もいる事でした。

原子爆弾が投下されたあの一瞬の事、そのあと、放射能という目に見えない恐怖によって多くの方が闘い、たくさんの方が亡くなられました。今も、東日本大地震で放射能の被害を受けた方々は恐怖と闘っています。73年経った広島でさえも放射能は完全に消えたわけではありません。人間の手で作られる、人間への恐怖を再び作り出してはいけないと思います。

3日間で当時のお話しをうかがえる機会が多くありました。溶けた物や、写真でも多くの事を学びましたが、実際の目で見て感じた事を聴けるということがすごく勉強になりました。時代は流れていくもので、貴重な話を聴ける機会も少なくなっていくと思います。同じ過ちを繰り返さないためには自分自身が受け継いでいくしかないのだと思いました。今の平和があるのが、どんなに有難いことなのか。当たり前の事と思ってしまいますがこの平和を守るために考え、行動しなければと思います。

未来のため、自分のため、大切な人のため、当時の方のためにも
これからの平和を創っていきたいと思います。

服部道子さんの証言

※２０１７年３月８日に記録されたものです。

1　広島での被爆と軍医部での看護体験

私は、1929(昭和 4)年に東京で生まれました。私が長女で、父母と弟、妹の５人家族でした。父が軍属であったため、小学校５年生の時、広島へ転居しました。女学校に進んでから、国家総動員法に従って学徒動員となり、看護科を学び、女学校を繰り上げ卒業させられ、暁部隊教育船舶司令部 6167 部隊の軍医部に軍属として配属されました。その後３か月後に、地球史上初めての原子爆弾の投下で被爆しました。私は 16 歳で、五感をもって「あの日」のピカ・ドンを知ることになりました。非人道的な破壊と殺りくだけを目的とした原爆の本当の悲惨さを知る者の一人です。

私のいた軍医部は爆心地から 3.5 キロ離れていました。ピカの光とドンの音で、目・鼻・耳を指で押え、口を開いて「やられた, さよなら」との思いで地べたに伏せました。気を失ってしまい、「お姉ちゃん，お姉ちゃん」と肩を蹴られて意識が戻り、防空壕に誘導されました。大変な爆弾が落ちたことがわかり、周囲を見ると、軍兵舎はぺちゃんこに壊れ、大木も倒れ、瓦礫と化していました。中心地の方を見ると、火の海で、黒煙・白煙があがっていました。爆心地から 2.5 キロの我が家はどうなっているか、家族の安否が気になりました。私の周りの人たちは、ガラスが刺さったり、木が刺さったり、骨折したりで、うめき声、泣き声、怒鳴り声が飛び交い、恐怖で身体は震え、涙が止まりませんでした。しかし、私には傷一つなく、奇跡を授かったのです。同僚たちとはそれっきり再会することはありませんでした。

暫くすると、こちらを目指して、人の群れがやってきます。見ると、全員がヨロヨロと重い足取りです。軍医大尉の指示で、にわかテントを張り、医療品や器具を寄せ集め、緊急に仮設救護所を作り、負傷者の手当をしました。被災者のほとんどが、身体全体が焼け焦げ、骨まで見え、頭髪はチリチリ、毬のように腫れた顔で、男女の区別もつかない程でした。治療の順番を、泣いたりわめいたりすることなく、じっと我慢して待っていました。お国の為だという教育を受けていたため、みんな歯を食いしばり、頑張ったのだと思います。着ている服はボロボロで、皮膚が垂れ下がってる人がほとんどでした。私は、恐怖でオロオロしていたら、軍医大尉から「そんなことで、銃後

の守りができるか」と怒鳴られました。

父が手当を受け左手を吊って、母と弟と一緒に尋ねてくれました。お互いの無事を確認できたことで、勇気が出ました。私は、軍医大尉のもとで三日三晩寝ないで働きました。手当が行き届かず、辛うじて手当可能な者だけが生き延びた感じです。兵隊と民間人とでは扱いが違いました。生きられると思われる者だけ、それも上官の順に、カンフル剤を投与したり、包帯を巻いたりと、差別しました。おかしいと疑問に感じながらも口にすることはできませんでした。

大火傷の患者は、高熱で脱水症状となり、「水・水・水」と要求します。水がないので、海水を脱脂綿に含ませて唇を拭ってあげると、「ああ美味しい・・・ありがとう」の一言で呼吸が止まることもありました。忘れられないのは、母親から赤ちゃんを「助けてください」と言われたので、背中の赤ちゃんを受け取ろうとしたところ、赤ちゃんの首がなく、「あっ、首がない」と口に出してしまったところ、その瞬間、母親が「ギャー」と言葉にならない悲鳴をあげてその場に倒れ、息絶えてしまいました。私は、後悔しながら、兵隊さんに手伝ってもらい、母親と首のない赤ちゃんを筵に並べて寝かせ、冥福を祈ることしかできませんでした。

2　被爆後の生活、父の死亡と自らのブラブラ病

広島県人でない私たち家族は、9月16日、復員兵と共に、広島を離れました。東京の鎌田にあった家が焼失していたため、縁者を頼って、青森県・宮城県へ行きました。やがて父は髪の毛が抜け、身体に斑点が出たり、下血・吐血したりて、8か月後の昭和21年4月19日に死亡しました。原爆被爆病だったと知る由もありませんでした。

父の死亡後、家族の生活は私の肩にかかり、体調悪化に苦しみながら福島で2年間代用教員をしました。村八分にされ、ブラブラ病に悩まされ、嘔吐、下痢、日夜の怯えに苦しみました。医者にもわからず、チフスかコレラ、結核ではないか、隔離しなければいけないなどと言われました。広島に留まった方が良かったのではないかと、後悔したこともあります。

当時は、原爆症に関する正しい報道は一切ありませんでした。語ることも訴えることもできず、12年間ほどは特に辛く、2回も死を考えたことがありました。

しかし、私は、奇跡的に助かった生命、今日ある私、「あの日」亡くなっ

た人たちの分まで強く生き、体験をいろいろな形で継承したいと望むようになりました。

3　憲法9条の大切さと戦争・核兵器の再使用に繋がる新安保法制

戦争って、原爆って、何だったのでしょうか。核被爆者は日本だけのことではありません。アメリカ、ロシアなど核保有国の実験場で、ボスニア・コソボ・湾岸戦争のイラク・アフガニスタンで老化ウラン弾により帰還兵や現地の人々が被害を受けています。マーシャル諸島ポリネシア・カザフスタンなど地球上には沢山の核被爆者がいます。でも、あまり知られていません。報道を拒むからです。

我が国は、戦後 71 年、何事もなく、日本人が海外で一人の生命も戦争のために殺したり、殺されたりしていません。それは憲法9条があるからです。

私は、幸い87年間、まもなく88歳ですが、生き抜いてきました。今でも、「あの日」のことは、ひと時も忘れることはありません。

一昨年の 9 月 19 日に、集団的自衛権の行使を認める安保関連法が強行採決され、昨年 3 月 29 日に施行されました。これには主権者である国民の一人として心を痛めています。何のために広島・長崎の悲惨な被害を受けたのでしょうか。「安らかに眠って下さい、過ちは繰り返しませぬから」という文字が広島平和記念公園の原爆死没者慰霊碑に刻まれています。地球上から核兵器と原発のない、平和な世界の実現を毎日祈っています。わが国の政府は過去の反省が足りず、過ちを繰り返すのではないかと心配でなりません。原爆の悲惨な情景が思い起され、胸が苦しくなります。

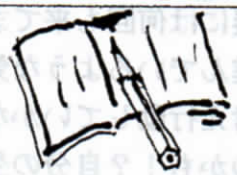
現在、南スーダンへの自衛隊の派遣が問題視されています。自衛隊員の生命が懸かっており、もし自衛隊員が殺されたり、人を殺したりしたら、誰がどう責任を取るのでしょうか。考えると、涙が出そうです。はらはらしながら見守っています。

私は、戦争、核兵器の再使用に繋がる、違憲の安保法制法の廃止を心から願っています。このことが実現された時、私の心に平和と安らぎが訪れるでしょう。

生命を失った多くの犠牲者の死が無駄でなかったと言える日がくるよう、「語り部」に励んでいます。

私は、現在も埼玉県原爆被害者協議会（「しらさぎ会」）の理事の一人として、核兵器廃絶の運動に力を尽くしています。

２０１８年8月２５・２６日寄せられた参加者の感想文



＊こわかった（小４・女・坂戸市）

＊こわかった（小４・女・鶴ヶ島市）

＊人が書いた絵や写真を見て、とても悲しく、思いがこめられていたと思います。息をひきとった子どもをかかえる感じや両親を失って兄にだきつく子どもなどを見て、とても苦しいなと思いました。（小４・女・鶴ヶ島市）

＊もう、戦争がおきてほしくありませんと思いました。（小４・女・鶴ヶ島市）

＊こわかった（小４・女・飯能市）

＊原ばくでどのくらいの人が、どのようにして亡くなっていったかよく分かりました。（小５・女・鶴ヶ島市）

＊本当に戦争はあってはならない危険なことだと思いました。（小５・男・坂戸市）

＊衝撃的な絵が沢山あって、原爆は自分が思っていたよりも何倍も何十倍も恐ろしいものなんだなと思いました。（中２・男・坂戸市）

＊『この世界の片隅に』の映画をみて戦争や原爆の恐ろしさを感じたので、気になり入ってみました。当時の状況について詳しく展示されており、展示物を見て心を打たれました。これらの恐ろしさを知ることがないだろう未来の若者にも伝えていきたいなと思いました。（高２・女・坂戸市）

＊戦争をしていた時代は想像もつかないので、怖いと思いました。（１０代・女・鶴ヶ島市）

＊とてもいろいろな資料があり、戦争のひどさが改めて知れてよかった。（２０代・女・坂戸市）

＊高校の修学旅行で広島に行き、実際に原爆ドームに行きました。見た時、８月６日の朝に原子爆弾が落とされた時の空気や、授業で見た映像が頭の中に映りました。（２０代・女・坂戸市）

＊涙が出ました。亡くなった子どもを抱く母の姿。言葉にできませんでした。（３０代・女・坂戸市）

＊戦争は絶対ダメ。胸が痛む。（３０代・女・鶴ヶ島市）

＊胸が痛む絵や写真が沢山ありましたが、戦後７３年、後世に反戦の意を込めて伝えていくべきものと思いました。有難うございました。（３０代・女・県外）

*平和に慣れてしまっている私たち。せめてこの季節（夏・８月）くらいは過去を振り返る事が大切。この運動は是非続けて下さい。ノーモア・フクシマ、ノーモア・ヒロシマ、ノーモア・ナガサキ。（４０代・男・坂戸市）

＊戦争展には何回も来てますが、いつ見ても恐怖で震えます。今の時代も戦争へ突き進んでいるような気がして怖いです。どうすれば戦争へ突き進まなくなるのか考え行動していかなければと思います。　毎回思うのですが、何もできてないのかも！？自分の生活だけで精いっぱいなところもあったりしてます。
（４０代・女・坂戸市）

*来年から新しい年号に変わります。昭和から平成、平成から・・・・。この現実をどうやって次の世代に教えてあげられるのか？もう、この戦争の恐ろしさを知らない語る人もいなくなる。現代は本当に平和ボケしている若者が多い。僕も戦争の事を知らないけど、『はだしのゲン』や『ガラスのうさぎ』『火垂るの墓』などを見て知った。『戦争を知らない子どもたち』の歌も知っている。
（４０代・男・坂戸市）

＊戦争や原爆は、昔から自分の中で大きなテーマだっただけに、毎年開いていることは知っていながら来れなかったので、初めて来られてよかった。思った以上に衝撃的な内容が多く、考えさせられるものも多かった。戦後７０年を過ぎた今、戦争は終わったものでなく、いまだに語りついていかなければいけないものだということを改めて知ることができました。（４０代・男・坂戸市）

＊考える機会となりました有難うございます。（４０代・男・鶴ヶ島市）

＊とっても最高（４０代・男・毛呂山町）

＊少しでも多くの方に見てもらいたいと思います。絶対に同じ過ちはしてはならないと誰しも思うはずですから。（５０代・女・坂戸市）

＊こんなに悲惨な時代があったことを忘れないようにしたいと思います。
（５０代・女・坂戸市）

＊１５年ほど前に一度見に来ました。毎年見たいと思いながら怖くて来れませんでした。（５０代・女・坂戸市）

＊被爆状態をより詳しく知ることとなった。原爆投下の数日前まで広島の病院に入院していた父の話を思い出す。Ｂ２９が毎日頭上を舞っていたことを。この時、私の存在が決定された。（５０代・女・坂戸市）

＊加藤咲さん服部道子さん、お二人の話を聞けて良かったです。絵画展の展示だけかと思って参りましたが、学ぼう、学んでほしいという一人一人の方のそれぞれを感じました。私自身も体験してない事（したくない事）ですが、想像力を持って学び続けたいと思いました。ありがとうございました。大学生のボランティアに来てもらうのは彼らにとっても良かったと思います。是非継続を。
（５０代・女・坂戸市）

＊自分の誕生日が８月６日なので、この日は毎年テレビで広島の話が出るので気になり見に来ました。（５０代・男・坂戸市）

＊過去の史実に今後も向き合っていく事が重要だと思う（５０代・男・坂戸市）
＊小４年の娘の国語の教科書で戦争のお話が出てきたため、是非連れてきて見せたいと思いました。力強い絵で心が震えました。二度と戦争はおこしてはならないと思いました。（５０代・女・鶴ヶ島市）
＊脱原発を伝える重要性を痛感致しました。絵画展を開いて下さりありがとうございます。（５０代・女・東松山市）
＊人が人をこのようにしてしまう戦争は本当にやってはいけないと思いました。（５０代・女・新座市）
＊今年は原爆絵画展を川越と富士見でも見ました。坂戸の絵画の展示は富士見と一緒ですね。「水」を求める絵が多かったので、見ている方もノドの渇きを覚えるようでした。坂戸は若い方がたくさんいて活気がありますね。城西大の学生さんでしょうか、若い人が一緒に取組んでくれるというのは、本当に重要だし貴重だと思います。服部道子さんのお話を聞けなかったのが残念です。ご挨拶だけでもと思ったのですが間に合わなかったです。（５０代・女・三芳町）
＊戦争は良くない（６０代・女・坂戸市）
＊戦争はダメ。平和な暮らしを願う（６０代・女・坂戸市）
＊何も知らない人達が死亡したのは誰が先導したのか？（６０代・女・坂戸市）
＊今の平和、幸せをしみじみ有難く思います。（６０代・女・坂戸市）
＊貴重な絵、写真、加藤さんのお話、服部さんのお話がお聞き出来て有難かったです。ぜひ、もっと多くの方に知って頂きたいと思います。特に、子ども達に聞かせたいです。そのような機会が持てるような企画が考えられたらよいと思うのですが（６０代・女・坂戸市）
＊原爆がどれほどひどいか見ていられない気持ちに（６０代・女・坂戸市）
＊大変よく分かりました（６０代・女・坂戸市）
＊静かに静かに語り継いでいくのが大事ですね。私もまた話を繋げていく一人でありたいと改めて思いました。（６０代・男・坂戸市）
＊日本政府も核兵器禁止条約に入れ！（６０代・男・坂戸市）
＊活動頑張って下さい。（６０代・女・鶴ヶ島市）
＊原爆の広島に行きたいと思ってます。（６０代・女・川越市）
＊大変すばらしい催しを有難うございました。何回もお願いしたいと思います。新座に住んでいて知る事ができませんでした。一人でも多くの方に知って頂く為に、どうしたらこの催しを知らせる事が出来ますか（６０代・女・新座市）
＊心が痛みます。二度とこのような事のないよう願います。（６０代・女・毛呂山町）

＊戦争は悲劇でしかないという言葉でしか表せない。あってはならない事です。（６０代・女・毛呂山町）
＊戦争は絶対にいけません。（７０代・女・坂戸市）
＊ご苦労様です。応援していきます。二度と不幸な出来事が起らない様に更に自身の活動を継続します。（日中共同建設桜誼材友活動）（６０代・男・毛呂山）
＊戦争は二度としてはいけない。地球よりも重い命を大切にしてほしい。２年前広島へ旅行に行き資料館を見学しましたが、胸が張り裂けそうになりました。今回の絵画展、ゆっくり見ることができ感謝します。有難うございました。（７０代・女・坂戸市）
＊８月になると平和について考える。本当に日本は平和国家なんだろうか。今、本当に国の様子を見ると危険な感じがする。この様な展示を若い世代が是非見て考えて欲しい。（７０代・女・坂戸市）
＊戦争はどんなことがあってもしてはいけない。若い人にもっと見てもらいたい。（７０代・女・坂戸市）
＊孫たちに見せたい。（７０代・女・坂戸市）
＊絵画展に来るたびに戦争のむごたらしさを思い、二度とこのような事が無い様願っています。絵画展を毎年続けてくださるスタッフの皆さんに感謝しています。（７０代・女・坂戸市）
＊広島の原爆ドームは前に見たことはあります。すごいと思っておりました。（７０代・女・坂戸市）
＊二度とあってはならない事ですね。（７０代・女・坂戸市）
＊継続的に毎年原爆展を見ていて、継続は力と感じます。毎年夏になると考えさせられます。通年の活動に敬意を表します。（７０代・女・坂戸市）
＊毎回ご苦労様です。この絵を見ると原発のない社会を作りたいと心から思います。（７０代・女・坂戸市）
＊戦争はしない。させない戦争。（７０代・男・坂戸市）
＊素人さんの描いた絵がきわめてリアルで驚いています。（７０代・男・坂戸市）
＊今回の企画を実現されたすべての方々のご努力に敬意と感謝を捧げます。世界中のすべての人々、特に、貧国や飢餓、苦しみや悲しみ、様々な肉体的精神的ハンデキャップに悩む人々が、それでも「生まれてきてよかった」と思うことができる世界に少しでも近づけるように願い続け、微力を注ぐようにしたいと願っています。平和な世界に向かって一人一人がどのような価値観の尺度を持つべきか自問を続けたいと思います。（７０代・男・坂戸市）
＊私も広島出身で、戦後２２年生まれです。（７０代・男・鶴ヶ島市）
＊無残！（７０代・男・鶴ヶ島市）

＊東京の地下壕の中で、板の隙間から日米の空中戦を見た年代です。うちの周りは、うちだけを残して全て焼けていました。この頃また、靖国神社に参る議員が多くなっています。今上天皇でさえ参詣を控えているのに、口では平和を言いながら軍事費を増やし続けています。唯一、被爆国でありながら非核宣言にサインできないのは悲しいことです。この絵はもっともっと見てもらいたいです。（７０代・男・鶴ヶ島市）

＊第２６回さすがに坂戸の絵画展です。大変充実しています。今回、城西大学２年生たちの若手がよく行動しておりうらやましく感じました。特別展、小学生の子どもたちも最後まで参加しており、この会の意義が繋がると思います。服部さんのお話には感動の限りです。感服です。（７０代・女・毛呂山町）

＊戦中生まれなので戦争が憎い。父や伯父や親せきのいた農村では多くが戦死した。原爆で平和は守れない。（７０代・男・毛呂山町）

＊毎年有難うございます。原爆の広島・長崎の忘れてはならない記憶、伝え続けていきたいです。平和のために（７０代・女・越生町）

＊戦中派の者ですが、終戦の時の事は良く覚えています。原爆がこのように大変な事は、もう忘れかけておりました。この様な催しに若い人たちが携わっている事、嬉しく思います。頑張って伝えて下さい。（８０代・女・坂戸市）

＊悲惨な絵を見て心が痛みます。戦争は絶対ダメ。命より大切なものはありません。（８０代・女・坂戸市）

＊悲惨の一言に尽きます。（８０代・男・坂戸市）

＊８５歳になり、今だから言わなくてはならない。もう遅いかもしれない。（８０代・男・坂戸市）

『原爆絵画展ボランティアの感想』

城西大学現代政策学部２年　**傳法谷祐樹**

今回のボランティアに参加して本当によかったと感じました。
実は大学生になるまではボランティア活動をしたことがあまりなかったので最初は不安でいっぱいでした。しかしこのような不安はボランティアが始まったらすぐになくなりました。自分に親切に話しかけてくれたり仕事の内容を丁寧に教えてくれたりしてくれるので自信を持って取り組むことが出来ました。またこの２日間で原子力爆弾の恐ろしさと実際に被爆した人の話を聞くことができ自分が今まで考えていた事がかなり覆りました。
またそれと同時にまだまだ原爆や戦争についての知識があさはかであることが身に染みてわかりました。今回のボランティアはこのようなことが知れる良い機会となりました。またボランティア全体を通して異なる世代の方と話す機会がとても多く普段あまり異なる世代の人と話す機会の少ない私にとっては貴重な体験となりました。特に２日目の午後にお話をさせていただいた方には感謝の気持ちでいっぱいです。
今の憲法が本当に押し付け憲法なのか、新自由主義の負の側面について（規制緩和で得をしたのは誰？またどのように損をしたのか）今の若者が乗りで憲法改正賛成に投票に賛成したらとんでもないことになることなど原爆以外のことも聞くことが出来ました。このような機会があるのもボランティアの良いところなのではないかなと個人的に感じました。また協力して仕事を行うことで協調性が身につくこと、コミュニケーションの機会がたくさんあることもボランティアの良いところだと感じました。またぜひ参加したいなと感じることが出来ました。
２日間ありがとうございました。

城西大学現代政策学部２年　**糟谷　爽**

今回原爆絵画展に参加して、原爆について知識を深められるいい機会になったと思います。絵画展に並んでいる絵や写真は見るだけで心が痛くなるようなものばかりでした。しかし、参加しなければ知

ることのできなかったであろう原爆の怖さを知ることができたと思います。また被爆者の方の話を初めて聞いたのですが、想像するのも嫌になるような景色が浮かんできました。同じことを繰り返さないためにも原爆絵画展などの活動をこれからも継続していくことが大切なのだと思います。

城西大学現代政策学部２年　　**猪鼻啓人**

８月２５日、２６日と参加して改めて戦争について考え、その恐ろしさを感じました。また、戦争を体験した方々の高齢化が進んでる今、直接体験した方から話を聞き、どれだけ今の日常が幸せな事なのかを知ることができました。戦争を経験したことのない自分達に出来ることはとても小さいかも知れないけれど今回学んだ事を平和のための活動に繋げられたらと思います。

城西大学現代政策学部２年　　**北村悠人**

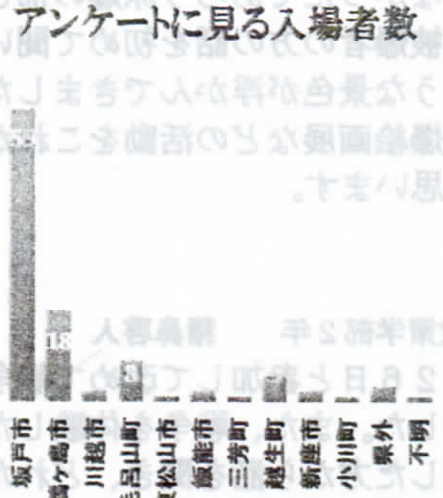
原爆絵画展に２日間ボランティアとして参加してみて改めて戦争の恐ろしさ、平和の尊さを感じ、戦争を体験した方の話を聞き、一言一言が重く自分の心にズシンとくるものがありました。
また、自分たちみたいに戦争を体験したことがない世代が増えていく中でこの様な絵画展を通じて戦争について、平和について考えていくことは大切なことだと思いました。

城西大学現代政策学部２年　　**大串 巧実**

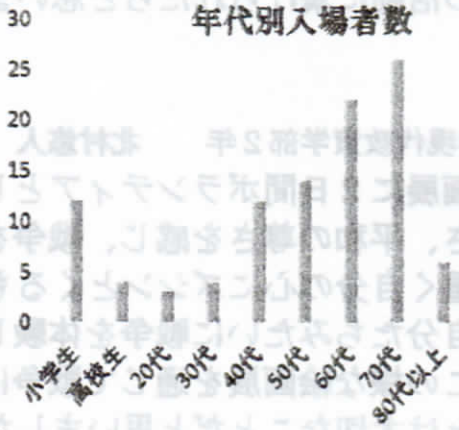
このボランティアに参加するまでは私は戦争というものも教科書の知識でしか戦争を知りませんでした。しかし、実際に戦争を体験した人の話を聞いたり戦争の時の絵を見たりしたことで本当の戦争の怖さなのが伝わり本当に戦争をしてはいけないものだと思いました。このような絵画展を続けていくことで戦争の本当の怖さなどを多くの人に知ってほしいと思いました。

2018年8月入場者の住所（アンケートより）

自治体名	人　数
坂戸市	59
鶴ヶ島市	18
川越市	2
毛呂山町	8
東松山市	1
飯能市	2
三芳町	1
越生町	5
新座市	2
小川町	1
県外	3
不明	1
合　計	103



年代別入場者数		男	女
小学生	12	3	9
高校生	4	0	4
20代	3	3	0
30代	4	0	4
40代	12	9	3
50代	14	4	10
60代	22	7	15
70代	26	12	14
80代以上	6	3	3
合計	103	41	62



入所者数から見た今後の課題
30歳代までの入場者数が低く、過去からの課題である若者たちへの啓発が必要です。
実行委員会として坂戸市及び鶴ヶ島市の小学校と中学校へ絵画展のチラシを教育委員会を通して配布してきましたが、更に宣伝が必要です。

原爆絵画展の成功のために
私たちも協賛します

２０１８年８月２５・２６日に開催された原爆絵画展に多くの方から協賛金が寄せられました。
お名前の出せる方のみ、以下に掲載させていただきました。
ご協力を感謝します。（敬称略・順不同）

秋山　誠・浅海　豊・青木　誠・青木　亘・浅野毅彦・石黒京子・石川　博・
今井弘行・池辺義文・池辺悠子・板倉　聡・上田典男・内山キリコ・馬橋芳明・
岡野　勉・大北満子・小川節子・大山英治・岡田作次・小高真由美・大野良夫・
加藤　咲・川村訓史・川村まり子・金井俊貴・金井紗希・加藤英典・鎌倉孝夫・
神立祐子・熊谷憲治・越川　求・河井勝久・河内裕介・黒渕京子・小林幸司・
榊原祐子・斉藤一由・佐藤公子・佐藤郁子・佐藤昭弘・白石俊夫・白石美恵子・
白石幸恵・清水　誠・清水はるみ・田邊　恵・田中昭子・田中　進・田原理一郎・
田中重仁・高橋　剛・武井誠・武井真澄・武井真人・武井道子・武井久美子・
武井倫太郎・武井芙由子・武井ハジメ・ラフェル・武井オルシェウン・マイケル
高比良伶子・高柳允子・田巻春生・津嘉田和子・高橋　勇・千島理子・辻谷清江・
戸来　誠・徳升悦子・中澤てる子・中澤きよみ・中澤雄一・中野京子・中津喜一・
南雲武雄・成瀬武夫・根岸　操・野口巳義・中島　修・中條克俊・林　まり・
林　弘美・橋本蓉子・花田勝夫・服部道子・長谷部操・馬場勝彦・間仁田香代・
円城忠文・町田武俊・町田敬子・丸茂富子・宮崎大介・宮沢茂雄・武藤昭子・
森田幸子・柳原　誠・ヤロ・ﾑｻ・ジャック・山本弘子・安田佳子・山崎幸雄・
吉村重和・吉田照秋・きままや
坂戸市　　坂戸市教育委員会　　坂戸市議会議長
鶴ヶ島市
埼玉教職員組合入間北単組　　社会民主党坂戸総支部
会場カンパ

ほか多数ご協力いただきましたこと、慎んでお礼申しあげます。
なお、誤字、記載もれ等失礼がございましたらご容赦ください。

［原爆絵画展ボランティア・スタッフ］
池辺・上田・岡野・加藤・川村・金井（俊・紗）・桑原・熊谷・白石（俊・美）
武井（誠・真）・津嘉田・中野・町田・安田・山崎・吉田・
城西大学生ボランティア（猪鼻啓人・大串巧実・糟谷爽・北村悠人・傳法谷祐樹）

発行　原爆絵画展坂戸・鶴ヶ島地区実行委員会
（問合せ先・・・☎049-289-2527　武井）